

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100501		
法人名	宮崎医療生活協同組合		
事業所名	グループホームおおつかの家		
所在地	宮崎市大塚町西ノ後3435番地1		
自己評価作成日	平成27年10月11日	評価結果市町村受理日	平成28年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kanistrue&jigyosyoCd=4590100501-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅生活の延長と位置付けて、家庭的な雰囲気大切に、穏やかにゆったりした気持ちで、日々の生活が送れるように支援するとともに、利用者とご家族との関係が維持できるように連携を取っている。また、医療機関との連携も密に取り、看取りまで行っている。この地域に開かれた施設をめざして、自治会加入を継続し、地域活動に利用者様と参加したり、地域住民の方々に施設を知っていただけるように活動を展開している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大型団地の東側に位置し、小規模多機能ホームがあり、火災訓練など合同で行うなど協力関係を築いている。利用者の思いや意向の把握にセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用して検討している。通院には家族が同行しているが、ホームから介護情報提供書を持参して受診し、その結果を職員が連絡ノートに記入して職員間で共有している。また、本人、家族の希望により、看取りを行っている。重度化に伴い、看取りにおける同意書を取り、全職員で共有している。設備面ではトイレが広く、車いすでも利用できる。洗面所など、水道水が適温に調整されており、利用者に優しいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時より一貫した内容を職員間で共有し、日々の利用者との関わりの中で実践につなげている。	「のんびり暮らせるいつもいつまでも笑顔あふれるやすらぎハウス」の理念に基づき、家庭の延長、第2の我が家と考えて、自由に日中出掛けられるように実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に継続加入しており、一斉清掃などの地区活動に参加。11/10には地域の方も含めた秋祭りを開催予定である。普段はあいさつの実施、また、近隣の住人の方より野菜や花をいただき交流している。	自治会の清掃活動に利用者と参加したり、隣の事業所と合同で秋祭りをを行い、地域住民、子どもが参加するなど、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動に参加したり、当施設の祭りなどに参加していただく事で、認知症対応の施設という事の周知はできつつあるものの、地域に対して具体的な貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は滞りなく実施できている。会議では運営状況や各種報告を行い、と着に助言をいただいている。11/10の秋祭りには参加していただく予定である。	定期的に開催しているが、サービス向上につながる意見等はほとんど出ていない。会議に地域の代表者の参加がない。	会議に地域の代表者、法人の代表者も参加して、サービス向上につながる意見などが出やすい会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課との普段からの連携や地域包括支援センターとは主催されている学習会に職員が交互で参加したり、利用者についての相談をしたりして連携をとっている。宮崎市社協主催のボランティア事業に登録し、ボランティアを受け入れている。	市の担当者へ介護保険の制度、認定更新申請など、分からないことを訪問や電話で確認するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の学習会に参加予定。身体拘束はしないことを原則として、日中玄関は開放、ベッド柵は2点としている。転倒予防対策としては、センサーマットは使用せず、鈴をつけたり、コールを設置して対応している。居室のサッシは二重ロックになっている。	新人職員には身体拘束について説明し、正しく理解している。身体拘束につながるような時は、その都度、拘束をしないように伝え、取り組んでいる。玄関は、午後8時まで施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	宮崎県高齢者虐待防止研修会や法人内の研修会に参加。利用者様の尊厳や人権を守ることを学習し、日々のケアを振り返るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会開催時には参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に契約書・重要事項説明書／重症時の指針について説明している。疑問点がある時はお聞きいただくように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者やご家族からの要望については、意向に沿えるように職員全員で対応している。	家族から意見や要望などが出され、それらを連絡ノートに記録している。月1回のスタッフ会議で検討している。緊急の場合は、その時いる職員で検討しているが、記録に残していない。	家族からの意見等は、その都度会議で検討し、記録に残して、運営に反映することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度部会を開催し、意見や提案を出し合って改善策を検討。各係を決め、実行し、また、法人内の報告を確認し、職員各自が運営に携わっているという自覚を認識できている。	スタッフ会議で職員から出たホームの設備に関する意見等は、施設長が代表者に提案して反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを設けており、目標を持ってステップアップできるように支援している。今年は社協主催の研修を3名が受講予定(1名は終了)。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には担当介護士を決め、指導・助言を行っている。相談しやすい職場環境をめざしている。研修は、法人内・外問わず、希望に応じ参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の加入を継続しており、研修に参加。地区の包括主催の学習会に職員交互で参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は1名の新規利用者がいた。併設している小規模からの入所であったので、ご本人やご家族の事前の見学を実施、情報を前ケアマネより提供してもらい、生活に支障のないように対応した。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後、ご本人やご家族の思い・願いを伺い、ご家族との信頼関係が築けるまでは、密に連絡を取るようになっている。入居時は担当介護士を中心に、より良い関係が築けるようにアプローチし、情報については職員全体で共有するようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から得られた情報を基に、生活環境をなるべく変化させないように気持ちを汲み取り、何を必要とされているのかを理解しようとしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するという一方通行的なケアにならないように、人生の先輩としての尊厳を持ち、言葉遣いや行動に配慮し、利用者のできる事を尊重し、できない事を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ニュースを欠かさず発行し、担当職員よりコメントを記載し、状況を報告している。ご家族の面会時には管理者や職員から近況を報告したり、緊急時は管理者より電話報告を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所が特別なことにならないように、馴染みの物があれば持参していただいている。ご家族と病院や外食に出かけられる。お孫さんや近所の方の面会がある事もある。	自宅に週末帰宅したり、なじみの美容室に行ったり、友人が来訪するなど、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所時は気の合いそうな方同士が接点を持てるように支援するが、徐々に利用者同士でかわりが持てるように見守っている。しかし、そぐわない場合は席を考慮したり、仲介に入る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度終了された方は病院に長期入院となった為、終了となった。入院時にお見舞いに伺い、様子を把握した。入院や受診時は介護情報書を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を普段の会話より把握し、D4シートに記載するようにしており、その都度職員間で検討し、実行するようにしている。	一人ひとりの思いや意向について、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用している。言葉が出ない利用者は、行動や表現から思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に行う情報収集は不十分な事が多く、入居後の利用者やご家族の会話から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課や一日の過ごし方については、入所前に確認している。入所後、できる事を見極め、少しでも役に立っているとの自覚が持てるように支援している。個々に合わせ、外出や散歩を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは職員協働で行うことを目標にしていたが、できなかった。担当者会議も家族と計画作成者のみで終わってしまい、プラン作成も遅れがちであった。ただ、日々の変化に伴う対応は修正し、実施できた。	モニタリングは毎月行い、定期的見直しは3か月ごとである。家族の意向を面会時に聞き、スタッフ会議で職員と話し合い、意見などを反映し、介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の記録として使用しているD4シートの記載は、観察事項・本人やご家族の言った言葉など記載できている。ただ、新入職員は慣れないため、意識して学習することを促している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が希望される事をできるだけ取り入れるようにしている。地域包括支援センター主催の認知症カフェを今後利用したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者とスーパーに買物に行ったり、近くの食堂に外食を計画し、実施。また、時におやつを食べに近くの店に外出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じ、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医には毎回介護情報を提供し、返書をいただく事もある。往診は内科・歯科をお願いしている。家族の状況に応じ、受診に同行している。	通院には家族が同行している。ホームから介護情報提供書を持って行ってもらい、受診の結果は職員が連絡ノートに記入し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診利用者は看護師の訪問を隔週で受けており、状況を報告している。緊急時は電話連絡をして対応される。法人内の看護師研修を3名受け入れた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、カンファレンスに参加した。入院中の面会時の状況は記録に残し、職員全員で情報を共有した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に指針の説明をして署名をもらっている。看取りを希望される場合は、そのような時期が来れば主治医より説明をしていただき、再度書面での確認を行い、同意を得る。職員全員に最期の対応について確認し、対応手順を作っている。	本人、家族の希望により看取りを行っている。重度化に伴い、看取りにおける同意書をその都度とり、スタッフ会議で全職員に方針の共有を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応一覧表を作成して対応している。法人内の学習会に参加した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、機器点検と防災訓練を実施している。日中の火災を想定し、実施した。	隣の事業所と合同で、夜間を想定した火災訓練を住民が参加して行っている。地元消防団の参加や地震を想定した訓練は行われていない。	地元消防団も参加して、火災、地震を想定した防災訓練を行うことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を重んじ、思いや願いを大切にし、言葉遣いや対応に注意するように努力している。職員同士気がついたら注意するようにしている。	日ごろから言葉遣いや対応等を心掛けているが、月日が経つとなれ合いになるので、職員間で、その場面ごとに注意をしている。接遇研修に年1回参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉や行動が何を意味しているのか、シグナルなのかを見逃さないように職員同士で考え、対応している。また、自己選択や決定ができる利用者には実施できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が管理しないように、利用者一人ひとりのペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど、選択できる利用者は職員と相談して服を選んでいる。爪きり・散髪・化粧など、清潔が保持できるように支援し、その人らしさを大切にいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせ、下膳やお盆拭きを実施してもらっている。メニューに季節感を生かしたりしている。	職員は、利用者に下膳、お茶のパック入れ、お盆拭きなど、できることを手伝ってもらっている。焼きそば、ホットケーキなどのおやつと一緒に作っている。食事は、職員と一緒に食べることが少ない。	中庭に椅子やテーブルを出して職員も同じ物を一緒に食べるなど、利用者と食事を楽しむ支援に取り組むことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の摂取量を決めている。摂取量や状況の把握を行い、摂取困難時には形態を工夫したり、代替の補助食品を利用している。体重を目安として、時に利用者に知らせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・嗽・義歯洗浄を実施。義歯消毒は週3回実施。時間がかかっても、できるだけ自力で実施していただくように支援。嗽のできない方は口腔内清拭を実施。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し、トイレ誘導の実施。尿便意のある時は短時間であっても誘導する。日中はできるだけトイレでの排泄を実施。パッドやオムツは状況に応じ選択している。	排せつチェック表を活用して、日中はトイレで排せつしてオムツの使用量が少なくなった。パッド、紙パンツなど、利用者の状況で種類を変えて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無はトイレから出て来られたときに確認。不明な場合はできるだけ付き添う。水分補給や食べ物、緩下剤で調整したり、ウォシュレットを使用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	完全個室で入浴剤を使用し、楽しんでいただいている。週3回の入浴を実施しているが、職員体制の関係でできない事もある。	定期的入浴は、週3回である。希望により、一日置きに入浴する利用者もいる。入浴剤を入れて温泉気分を味わうことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝はご本人の意向に添うように支援。不眠時はホールでTVを見たりして過ごしていただいている。昼夜逆転予防の為、日中はなるべくホールですごしていただき、レクに参加してもらい、生活にリズムをつけられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱は1週間分ずつ各自の薬箱に入れている。薬箱には本人の写真を貼り、確認している。薬は一人ずつ介助、内服時には氏名・日付・時間を必ず声出しで確認し、利用者が飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各々に応じた役割を持っていただくようにしているが、負担にならないように配慮している。利用者に合わせ、ゲーム・歌唱・運動などを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者各々に応じ、買物・外食・ドライブ・散歩を実施している。全員一緒に外出はできなかったが、2回に分けて昼食を食べに外出した。	近所の散歩、フローランテ、青島などへドライブに行っている。歩行困難な利用者や車いすの利用者も2回に分けて参加し、楽しんでもらうよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望される場合はご家族より預かり管理している。また、どうしても手元におきたいと言われる場合は紛失してもいいという事をご家族に了解を得て持っていたいっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡して欲しいという場合はご家族に許可をもらい、電話をかけている。手紙はなかなか書かれない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を最優先に、廊下やホールには物を置かないようにしている。季節の花や装飾品は分かりやすいものを手作りで飾り、季節感を感じてもらっている。日中は利用者とともに掃除機やモップかけを実施している。	食堂に天窗があり、採光を取り入れて明るい。トイレが広く、車いすも十分に利用できる。洗面所など水道水が適温に調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・椅子に座られる方と場所を利用者様自身が決められる場合があり、上手く調整している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものを持参していただいたり、写真など馴染みの物を持参してもらっている。居室は換気や室温に注意。床掃除はハイター拭き・テーブルは毎食事にハイター拭きを実施し、衛生に留意している。	たんすや寝具、化粧品、家族の写真など、なじみの品々が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室はフルネームで表示し、ご本人の写真飾っている。トイレや浴室は文字と飾りで表示。廊下やトイレに手すりを設置している。		